

秦野市青少年指導員だより

発行 秦野市青少年指導員連絡協議会

編集 秦野市青少年指導員連絡協議会広報委員会

第44号



少し緊張気味だった宿泊研修のスタート

各地区で活躍する

中学生ボランティアに 温かい声援を

若者の地域ボランティアと聞くと高校生や大学生を想像しがちですが、秦野市内では多くの中学生が、地域に飛び出して活躍しています。今回は、私たち青少年指導員が応援する、彼ら中学生の活動の様子を紹介します。

南地区 ジュニアリーダー活動

南地区では、毎年新学期になると、南地区の青少年指導員とともに学校、地域でのイベントや子ども会活動の際にゲームや工作を通して子どもたちとふれあう、おにいさん、おねえさん役の中学生リーダーを募集しています。南地区の南中学校と南が丘中学校の協力を頂いて全ての生徒を対象に募集を行い、今年度は六十五名の中学生から手が挙がりました。

宿泊研修

子どもたちとふれあうためには、手遊びゲームや工作のやり方を習得してもらう必要があります。また二つの中学校の生徒さんが集

まってくるため、初対面同士のコミュニケーションをとることも大事になってきます。そこで六月には両校のジュニアリーダーを集めて、研修のための一泊二日の交流キャンプを表丹沢野外活動センターで実施しました。



かまどでの火起こし

最初は慣れない者同士、あまり会話も弾みませんでした。紙芝居にキャンプファイヤーと研修が進むにつれ、お互いが協力して取り組むことで両校の生徒同士の会話も増え、楽しい時間が過ごせたようです。

実際の活動の場へ

宿泊研修後も、時間を作ってはゲームや紙芝居の研修を行い、ようやく本番の活動を迎えます。



大型紙芝居の研修

南が丘小学校での「丘のだがしや楽校」、南公民館での「盆の仕作りと流しソーマン」、青少年指導員主催の「親子防災体験キャンプ」、南地区ふれあい祭りといった小学校や地域でのイベントでは、研修の成果を発揮して、こどもたちと楽しく過ごすジュニアリーダーの笑顔が見られました。



まず子どもたちの心を掴んで

リーダー中学生の姿が見られそうです。以下は、そのリーダーたち（現役中学生とOB）が語ってくれた言葉です。

「親子防災体験キャンプ」

に参加して

吉田彩乃

(南中学校二年生)

私がジュニアリーダーとして防災体験キャンプに参加しようと思ったきっかけは東日本大震災です。神奈川県にも、大きな地震が来たらどうすればいいんだらうという気持ちが強くなり、その時に色々な面で人々の支えになるような人になりたいと思って参加しました。

キャンプでは救命救急の方法を習い、自分にできることから始めるという大切さを学びました。

ボランティア活動をしていく中で大切なのは、自分がいま何をすべきか、自分で考えられるようになることだと思います。

こういった自分を見つめ直させてくれる活動に、これからも多くの後輩たちが参加してくれるよう願っています。

大学生になった今も

萩原悠太

(大学二年生)

私は中学三年生の時に友人から誘われ、ジュニアリーダーに参加しました。そこでの活動は普通の学校生活を送ってきた自分にとって新鮮なものばかりでした。今まで知らなかった地域の大人の方とも交流でき、学年の異なる人たちと協力して活動に取り組むことで、大人との接し方や小さい子どもの先頭にたつてリードする方法を学びました。

この活動は、私たちが社会生活を送っていく上で必



すっかり手慣れたリードぶり

鶴巻地区での社会福祉協議会が主催する「夏休みあそぼう会」も、たくさんの中学生ボランティアに支えられています。以下は、この夏参加した二人の中学生の感想です。

大根・鶴巻地区
夏休みあそぼう会

「夏休みあそぼう会」

和田杏奈

(鶴巻中学校一年生)

七月二十六日の「夏休みあそぼう会」で、紙工作の指導を担当しました。最初に、紙工作「くるくるツバメ」の作り方を、青少年指導員の方に教えてもらいました。

糊で貼る所とかが細かく複雑だったので、私に「こんな難しいのを教えられるのだろうか」と、小さい子が失敗して悲しむ顔などを想像してしまい、すごいプレッシャーでした。

でも、いざ会が始まると、幼い子がワクワクしている顔で来てくれました。私は、

私は、あそぼう会で紙工作のボランティアをやりました。最初は、下級生の子

教えるのは難しかったのですが、担当した全員に間違えずに教えられて良かったし、出来上がったあと、嬉しそうにしている子供の顔を見て、私も嬉しく思いました。
小学生や小さい子どもと触れ合うことで、教えることの楽しさも知った楽しいあそぼう会でした。

あそぼう会に参加して
三宅 滯奈
(鶴巻中学校一年生)



紙工作の指導

子どもが好きなのでとてもうれしかったです。

たちに楽しんでもらえるか心配でしたが、子どもたちの楽しんでる姿を見てとても嬉しかったです。
帰るときに、「楽しかった」「ありがとう」等と言ってくれたので教えてあげて良かったと思えました。

紙工作のボランティアを通してたくさんのことを学びました。小さい子には、優しく笑顔で話しかけてあげること、上級生も怖くないというイメージを持たせようと心がけました。
上級生と下級生との交流を深めるためにも、これからも「あそぼう会」を続けていってください。

北地区

福祉ふれあいまつ

北地区の「福祉ふれあいまつり」でも中学生ボランティアが活躍しています。参加した中学生の感想を紹介します。

ふれあいまつりに参加して

望月 葵
(北中学校二年生)

私がこのボランティアに参加しようと思った理由は、友達に「一緒にやらない」と誘われたからで、「じゃあせつかくだからやってみようか」といった軽い気持ちでした。



北中学校吹奏楽部の演奏

私は焼きそばを担当しました。最初は、焼きそばに使う粉末ソースをボールに出す仕事でしたが、まつりが始まってからは、焼きそばの販売をまかされました。お金の計算を間違えないかなど心配しましたが、特にそのようなことも無かったので良かったです。

今年は、小学校の運動会とかぶってしまったこともあり、人数が少なかつたさうなのですが、五つくださ

い」と言われた時は、「こんなに買ってくれるんだ」と思い、嬉しくなっていました。

周りの方々も優しくかったですし、いい経験になったと思うので、来年もやってみようと思っています。

西・上地区

ジュニア車いす体験教室

九月二十二日(日)に、西公民館主催によるジュニア車いす体験教室が開催されました。

この日は中学生が多数参加してくれる予定でしたが、台風の影響で部活や試合が急に重なり、男子生徒たった一人の参加になってしまったことが残念でした。それでも、小学生七名に青少年指導員六名が加わり、体験教室をスタートしました。

まず講師の方から車いすの種類や構造・名称などを教えていただき、その後車いすのひろげ方にたたみ方、押し方やブレーキのかけ方といった操作を実際に動かしながら覚えていきました。

そしていよいよ本番。車いすに乗る人と介助する人に分かれてペアを組み、西公民館から渋沢駅まで往復する実体験に、間隔を空けて一台ずつ出発しました。

途中、大きな車いすを相手に「うまく動かない」「歩道が斜めだ」「ちょっと、ゆっくり押してよ」などと、笑顔の中にも言い合っている小学生たちの間に交じって、一人長い足を小さく折り曲げて窮屈そうに座っている男子中学生を見かねて、思わず「大丈夫」と問いかけたのですが、照れくさそうにうなずいてくれた姿が印象的でした。



さいげない目配りも

車いすを片付ける時も、さりげなく、そして積極的

に手伝う姿に感心しました。彼のおかげでとつても和やかな雰囲気です。教室を終えることができました。

秦野市・諏訪市

交流キャンプ

秦野市では、姉妹都市諏訪市との共同事業として、両市の子どもたちが交流するキャンプを、毎年夏、それぞれの市で交互に開催しています。三十回目の節目を迎えた今年は、秦野市三十名、諏訪市二十一名の小中学生・中学生が参加して、諏訪市いずみ湖公園研修の家で開催されました。

キャンプは、両市の職員、青少年指導員が大卒の運営を担当しますが、実際に子どもたちが取り組むプログラムについては、その進行を、それぞれの市のジュニアリーダーOBである、高校生・大学生・社会人の手にゆだねます。

今年も秦野からは二名のジュニアリーダーOBが参加してくれ、諏訪に向かうバスの中から、もうすっかり子どもたちの心を掴んで

いました。

以下は、その高校生が寄せてくれた感想です。

姉妹都市

交流キャンプに参加して

相原綾菜

(高校三年生)

七月二十日、二十一日の二日間、秦野市・諏訪市交流キャンプが長野県で行われました。私自身初めて長野県に行くので、どういふ所なのかとても楽しみでした。バスに乗り約三時間半で諏訪市に到着しました。



開村式での顔合わせ

秦野市で七月というのと、とても暑いのですが、諏訪市は丁度よい涼しさでした。諏訪市と合流して開村式。その後、班に分かれてお弁

当を食べました。その時、去年参加していた諏訪市の小中学生と再会し、とても嬉しくなりました。昼食後はウォークラリーを行い、山道の途中にある大見山展望台から見た、諏訪湖と諏訪市全体の景色はとてきれいでした。



緑の中のウォークラリー

このウォークラリーが両市の垣根を取り外してくれただのか、子どもたちはその後のもちつき、野外炊事に協力して取り組んでいました。夕食後に行った諏訪市のキャンプファイヤーは、野外だったこともあり、とても大きかったです。その火を囲んで、ジンギスカンやマイムマイムを踊りました。その後、猛獣狩りゲー

ムをやり、両市の交流は深まったと思います。ファイヤーの最後には、手持ち花火を各班でやりました。何人かの子どもが私に花火をくれ、一緒に楽しみました。秦野でやるキャンプファイヤーとは違う楽しさがありました。

二日目は、ほとんどの人が初めての水陸両用バスで諏訪湖を一周しました。素晴らしい乗り心地でした。その後、すわっこランドへ向かい、プールを楽しみました。

二日間を通して、秦野市諏訪市関係なく子どもたちも楽しめていて、しっかりと交流ができたと思います。今年も、諏訪市の方々にたくさんの良い思い出を頂いたの、来年は秦野市に来てたくさんのおいしい思い出を作ってもらえるようにしたいと思えます。

広報委員

幡井康雄(本町) 林 良子(本町)

堂田輝美(南) 溝口雅之(南)

久保光弘(東) 岩本 正(北)

太田昭和(大根・鶴巻) 本多勝昭(大根・鶴巻)

吉田トシ子(西・上) 米山 恵(西・上)

神奈川県 青少年指導員大会



支えてくれた方々と

十一月二十四日(日)逗子市逗子文化プラザホールで第四十六回神奈川県青少年指導員大会が開催され、八期十六年の長きにわたり活動された功績を讃えられ、堂田輝美氏(現広報委員長)が、優良指導員として表彰されました。おめでとうございます。